

中等英語教員講習に関する基礎資料と雑誌・書籍

(第1版 2025.6.5)

江利川 春雄 (和歌山大学名誉教授)

中等英語教員講習に関しての基礎資料としては、公式記録として政府の『官報』、文部省の『教員講習会要項』と『大日本帝国文部省年報』がある。文部省の教員講習は、開催要項および開催報告が「告示」として『官報』に掲載される場合が多かった(図1)。

また、毎年『文部省年報』にも中等教員研修の報告が掲載されている(図2)。このことは中等教員研修が文部省の重要な施策の一つであったことを物語っている。

文部省告示第百二十四號									
本年開設スヘキ師範學校中學校高等女學校教員等夏期講習會ノ講習學科目、開會地、開會期限、講習員資格(甲號表)各地方長官ニ於テ選定スヘキ講習員定員(乙號表)及各學科講習要目等ハ左ノ如シ									
明治三十九年五月二十六日 文部大臣 牧野伸顯									
講習學科目	開會地	開會期限	講習員資格	講習員定員	講習員資格	講習員定員	講習員資格	講習員定員	講習員資格
最近世界史	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	澤瀉 進馬	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	澤瀉 進馬	中學校甲種程度ノ實業學校教員
小學理科教授	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	高橋 章臣	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	高橋 章臣	中學校甲種程度ノ實業學校教員
圖畫	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	岡田 三郎助	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	岡田 三郎助	中學校甲種程度ノ實業學校教員
手工	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	島田 佳英	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	島田 佳英	中學校甲種程度ノ實業學校教員
動物及植物	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	岡上 秀吉	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	岡上 秀吉	中學校甲種程度ノ實業學校教員
英語	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	市村 塘	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	市村 塘	中學校甲種程度ノ實業學校教員
物理	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	杉森 此島	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	杉森 此島	中學校甲種程度ノ實業學校教員
化學	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	栗原 基	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	栗原 基	中學校甲種程度ノ實業學校教員
學	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	平 康忠之助	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	平 康忠之助	中學校甲種程度ノ實業學校教員
第五高等學校教授	東京	七月二十五日迄	東京高等師範學校教授	白壁 健次郎	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	白壁 健次郎	中學校甲種程度ノ實業學校教員

図1 『官報』6870号(明治39年5月26日)の記載例(部分)

冊子として中等教員らに配付された文部省の『教員講習会要項』は最も詳細な資料で、目下のところ大正10年度、11年度、12年度、13年度、15年度、昭和3年度、5年度、9年度の分が、また『夏期教員講習会要項』は昭和14年度と15年度の分の合計10冊の存在が確認されている(2025年4月26日現在)。

英語教員講習会の様子をもっとも詳細に伝えるものは、『英語青年』や『中外英字新聞』などの英語系雑誌で、岡倉由三郎、斎藤秀三郎、熊本謙二郎などの講義内容を数回にわたって詳細に記載することで、講習の概要を全国各地の教育現場に伝播させる役割を果たした。さらに『教育時論』や『教育公論』などの教育雑誌にも簡略ながら中等教員講習に関する広報や記事が

師範學校中學校高等女學校教員等講習會									
講習會場	講習期間	講習員資格	講習員定員	講習員資格	講習員定員	講習員資格	講習員定員	講習員資格	講習員定員
文部省	自七月十八日迄	東京高等師範學校教授	澤瀉 進馬	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	澤瀉 進馬	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
東北帝國大學	自八月十一日迄	東京高等師範學校教授	高橋 章臣	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	高橋 章臣	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
東京高等師範學校	自七月廿三日迄	東京高等師範學校教授	岡田 三郎助	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	岡田 三郎助	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	島田 佳英	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	島田 佳英	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
廣島高等師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	岡上 秀吉	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	岡上 秀吉	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	市村 塘	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	市村 塘	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
廣島高等師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	杉森 此島	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	杉森 此島	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
廣島高等師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	栗原 基	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	栗原 基	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
廣島高等師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	平 康忠之助	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	平 康忠之助	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一
廣島高等師範學校	自七月廿七日迄	東京高等師範學校教授	白壁 健次郎	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一	東京高等師範學校教授	白壁 健次郎	中學校甲種程度ノ實業學校教員	一

図2 『文部省第48年報』(大正9年度)の記載例

掲載されている。

講習内容をもとに論文や書籍として刊行された事例も少なくない。たとえば、戦前期における英語教育書の最高峰である岡倉由三郎の『英語教育』（博文館、1911：増補版は研究社、1937）も文部省講習会と深く関わっている。刊行に先立ち、岡倉は講師を務めた 1911（明治 44）年 5～6 月の文部省英語教員講習会において、同書の内容の一部を「同会員の前に披瀝して、愚見に対する批判を得ることを務めた」のである（「はしがき」2 頁）。

このほか、中等英語教員講習会での講義に基づく書籍としては、前述の講演筆記に加え、以下のものがある。

- ハワード・スワン講述・安藤貫一筆記・編集（奥付では共著）『スワン氏英語教授法』（*The Psychological Method of Teaching and Studying English. By Professor Howard Swan. Arranged by K. Andō.*）国民英学会出版局、1902
- ガントレットほか講述・安藤貫一筆記・編集（奥付では安藤貫一著）『明治三十七年夏期金沢英語講習会筆記』（*Résumé of Lectures Given at the Summer School of English (1904) by Prof. Gauntlett, Prof. McKenzie, Prof. Elliott, Written and Arranged by K. Ando.*）三省堂、1904

ともに明治期の英語教員に求められた英語力と英語教授法を知る上で歴史的な意義を有するが、現在所蔵が確認できるのは、①が 1 冊、②が 5 冊のみである。

- Edward Gauntlett, *The Elements of Japanese and English Phonetics for the Use of Japanese Teachers of English*. Sanseido（三省堂）、1905

日本の英語教師を対象とした初の英語発音指導書で、1904（明治 37）年に金沢で開催された文部省夏期英語講習会で行った講義の内容を書籍化したもの。目次構成と考察は田邊祐司『日本人は英語の発音をどう学び、教えてきたか：英語音声教育の小通史』（研究社、2024）95～101 ページに記載されている。

- 栗原基『英語発達史』博文館、1910

「余は文部省の命を奉じ、英語発達史を講ずること前後二回に及んだ」。栗原は 1909（明治 42）年に「英文学史及英語学史」を、1910（明治 43）年に「英語学史」を講じている。

- ウィリアム・イー・ラキソン・スイート、飯島東太郎『英国風物談』大日本図書、1918

「本書は大正五年八月東京高等師範学校にて開催せられたる文部省夏期講習会に於て、講師ウィリアム・イー・ラキソン・スイート氏の述べられたる講演を基とし、之を邦語にて解釈説明せしものなり」（例言 1 頁）

- 金子健二『英語基礎学』興文社、1918

「著者が大正六年度文部省中等学校英語教員夏期講習会に於て、十四時間にわたって、講演した

るものをもとにして稿を起し、更に新らたなる材料を加へて、此の小著を編んだのである」(序 1 頁)

○ 細江逸記『動詞叙法の研究』泰文堂、1933

1932 (昭和 7) 年 8 月の軽井沢夏期大学での「英文法瑣談 (テキスト使用)」の「4 回講演の原稿を基とし、更に整理を新たにし、幾多の事項を追加したもの」(同書「序に代えて」)

○ 広島文理科大学英語英文学研究室編集・発行『英語教育 第三巻 夏季特輯号』1938

「集録した論文は、(1938 年) 八月一日から十日まで広島高等師範学校で文部省主催中等教員英語講習会が開催されたのを機会に、各講師に乞うて講義を基礎として執筆を願ったものである」(はしがき)。

講習は 8 人の講師によって行われたが (『官報』3452 号、1938 年 7 月 7 日参照)、『英語教育』夏期特集号に掲載されたのは 6 本。この他に講習会での定宗数松の講義「日本英語教授の変遷」は「日本に於ける英語教授法の変遷」(文部省編『文部時報』第 641 号、1938 (昭和 13) 年 12 月) および「日本に於ける英語教授法史 (明治二十年より四十五年まで)」(広島文理科大学英語英文学研究室編『英語英文学論文集』第 1 輯、1938 (昭和 13) 年 6 月) として論文化され、いずれも江利川春雄監修・解題「英語教育史重要文献集成」第 5 巻「英語教育史研究」で復刻されている。また、『英語教育 第三巻 夏季特輯号』(1938) の全体も江利川春雄監修・江利川春雄・上野舞斗解題『英語教育』別巻 (ゆまに書房、2021) として復刻されている。

ただし、『英語教育』夏期特集号の論考は、講習の内容を忠実に再現したものではない。たとえば河合茂の「現代英語綴字法の史的解説」は「夏期講習会には此の外現行の我が国中等学校の英文法教科書の所説を通時的英文法の立場から観た場合にはどうなるかに就いても話したのであるが、此处では紙面の都合で省略した」(36 頁) とある。

○ 新渡戸稲造著・高木八尺編『衣服哲学：新渡戸先生講演』研究社、1938

1918 (大正 7) 年 8 月に軽井沢夏期大学で行われた連続講演の速記に訂正加筆を加えたもの。

以上のように、英語教員講習の教育効果は、講習会参加者だけにとどまらず、英語雑誌や書籍を通じて広範囲に波及したのである。